# 1.　はじめに

鋼構造物の建設の歴史は非常に長い．18 世紀後半から英国，ロシアで銑鉄の製造が始まり鉄道，橋梁，タワーなど土木構造物に大量の鋼材が使用され近代文明を作り上げた．日本では 19 世紀後半から銑鉄の製造が始まった．良質な建設材料としての鋼材は欧米から輸入されてきたが，日本で本格的な製鉄業が成長するとともに多くのの鋼構造物が建設されてきた．戦後の高度成長期をむかへ各種土木施設への鋼材の使用が飛躍的に増加した．また鋼材の種類と材質の多様化により，各種構造物へ鋼材が適用された．これに伴い設計法も次第に整備されてきた．構造設計法は許容応力度を中心に整備され，簡便さと分かり易さおよび大量急速な施設整備の要求とあいまって設計技術者に利用されてきた．しかし欧州を中心とした設計法の国際化，仕様設計法から性能設計法への要望により構造設計法が大きく変化を求められてきた．この報告書では橋梁を除く各種鋼構造物の設計法を過去，現状，将来の三視点から眺めこれらを取りまとめたものである．